［別紙２］

審　査　の　結　果　の　要　旨

氏名　　豊田達也

本研究は次第に利用される趨勢にある電子カルテの有用性を明らかにするため、東大病院放射線科病棟において1994年より導入された放射線治療目的で入院した患者の治療経過を対象とした電子カルテを用いて、電子カルテを使った場合と従来の紙のカルテを使って記載した場合を、カルテを読む立場、書く立場から比較、検討を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1.　放射線治療目的で入院した患者の治療経過に関する必要事項を確認しながら、入院中のカルテを読む時間の計測を行った。その結果カルテを読む時間の平均値は、電子カルテと紙のカルテの間に有意な差が見られ、電子カルテの方が有意に短かった。原発部位、治療方法、外部照射病巣、治療効果、副作用を治療経過の必要事項として選択したが、選択した記載頻度の評価では有意な差は認められなかった。

2.　電子カルテを使用してきた受持医に対して、電子カルテに対する評価に関するアンケート調査を行い、書く立場から本システムの利便性を定性的および定量的に分析することを試みた。その結果、判読性について高い評価が得られた。

アンケート調査の結果は以下の通りであった。

1）紙のカルテと比較して、新患サマリーの作成時間は短くなる傾向にある。
2）紙への印刷の必要性は一覧性の観点から高いと考えられている。
3）紙のカルテと比較して、記載場所の自由度は高いと考えられている。
4）判読性に対する評価は高い。
5）新患サマリーの書式が統一されたことは便利と考えられている。
6）プロブレム別の記載をする際、プロブレム別の経過表示は便利と考えられてい

る。

7）図、グラフ、写真を記載する機能は必要と考えられている。

8）全体を把握しながらカルテを読むのは、紙のカルテに比べて不便と考えられている。プロブレム別に経過を読むのは、紙のカルテに比べて便利と考えられている。

9）電子カルテはカルテを記載する上で助けになっていると感じる人の方が多い。

以上、本論文は放射線治療目的で入院した患者の治療経過の必要事項を確認しながら入院中のカルテを読む時間の平均値は、電子カルテの方が有意に短かったこと、治療経過の必要事項の記載頻度の評価では有意な差は認められなかったこと、判読性について高い評価が得られたことを明らかにした。本研究は電子カルテの有用性の検討に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。